

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報

2009.8.25

No. 51

連絡先 042-555-1911



## 2009横田友好祭 最新鋭ステルス戦闘機 F22 ラプターが本土初公開



8月22日と23日、横田基地友好祭が開催されました。この友好祭で、米軍の最新鋭ステルス戦闘機 F22 ラプター 2機が本土で初めて一般公開されました。

同機は沖縄・嘉手納基地に2007年2月に初めて配備され、以後、断続的に配備されており、事実上、常駐化しています。

ミニ情報No. 48にも記載しましたが、沖縄県議会では6月、【F22即時撤去を求める陳情】が全会一致で採択されています。

F22は敵のレーダー網をくぐりぬけて目標に接近する能力が高いことなどから“世界最強の戦闘機”と言われています。しかし1機あたりの開発費が150億円とも言われ、米紙ワシントン・ポストでも、「F22が1時間飛行するのに30時間以上の整備が必要で、1時間当たりの飛行コストは44,000ドル（約400万円）以上」であり「F22には、レーダー探知を避けるため、レーダー波を吸収する素材が使われているが、これが雨などの影響を受けやすく、整備上の主なトラブルになっている」と報



写真上：公開された F22 戦闘機

写真下：C5 ギャラクシー(09.8.22)

道しています。米政府は歳出削減の一環として同機の生産中止を提案。米上下両院も7月に承認したそうです。

## 横田基地 航空自衛隊航空総隊司令部の移駐に伴う平成20年度契約実績（5件）

- (1) 工事件名：下士官教育施設新設建築その他工事 工期：平成 21.2.6 ~ 21.10.31  
工事概要：鉄筋コンクリート造り 2階 延面積 約 1,500 m<sup>2</sup>  
契約金額：4億 7750万円（税込み）
- (2) 工事件名：託児所新設等建築その他工事 工期：平成 21.3.10 ~ 22.2.28  
工事概要：鉄筋コンクリート造り 1階 延面積 約 2,400 m<sup>2</sup>  
契約金額：7億 6335万円（税込み）
- (3) 工事件名：庁舎新設建築その他追加工事 工期：平成 21.3.17 ~ 22.9.30  
工事概要：庁舎棟新設 鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階 地下2階 延面積 約 27,000 m<sup>2</sup>  
機械棟新設 鉄骨鉄筋コンクリート造り 地下2階 延面積 約 4,000 m<sup>2</sup>  
契約金額：24億 6750万円（税込み）
- (4) 工事件名：通信局舎新設建築その他工事 工期：平成 21.3.19 ~ 22.3.31  
工事概要：鉄筋コンクリート造り 2階 延面積 約 2,000 m<sup>2</sup>  
契約金額：8億 1375万円（税込み）
- (5) 工事件名：宿舎新設等建築その他追加工事 工期：平成 21.3.20 ~ 23.3.15  
工事概要：鉄筋コンクリート造り 6階 延面積 約 5,200 m<sup>2</sup>（1K 30戸、3LK 54戸、3LDK 6戸）、  
鉄筋コンクリート造り 3階 延面積 約 500 m<sup>2</sup>（2K 12戸）、  
鉄筋コンクリート造り 6階 延面積 約 6,900 m<sup>2</sup>（3LK 96戸）その他  
契約金額：23億 4150万円（税込み）（福生市議会横田基地対策特別委員会の資料より）

…核持ち込み証言…

## 核持ち込みラロック証言公表（1974年10月6日）

1974年、ジーン・R・ラロック米退役海軍少将が、核装備した米艦船が日本に寄港する際、核兵器をその都度おろすことはしない旨米議会で証言したことが公表されました。

60年安保闘争以降、政府は国民の平和を求める声をふまえて平和憲法遵守の立場を明確にし、1968年には「持たず、作らず、持ち込まさず」の非核三原則を表明していた中で、非核三原則が守られていない、ということが明らかになったのです。

1975年には神戸市議会で「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議」が採択され、その後米軍艦は神戸港に寄港しなくなりました。

平和や地方自治についての憲法の規定と理念をふまえ、非核の願いを自治体の場で実現しているという運動はやがて全国・世界に広がり、ニュージーランドでは国として完全な非核化を実現するに至っています。

## ライシャワー元駐日大使の証言（1981年5月18日）

ライシャワー元駐日大使は毎日新聞のインタビューで、核兵器を搭載した米艦船の日本への寄港が日米の合意のもとに容認されていたと明かし、1981年5月18日に報道されました。

日本政府は非核三原則の「持ち込ませず」との関連について「核を搭載した艦船の領海通過、寄港も含めて核の持ち込みはすべて事前協議の対象」（当時の宮沢喜一官房長官）として、事前協議が行われていない以上、核兵器は持ち込まれていないとの見解を押し通しました。

## こうして“核”は持ち込まれた ～空母オリスカニの秘密～



昨年のことですが、11月9日に『NHKスペシャル』「こうして“核”は持ち込まれた～空母オリスカニの秘密～」が放映されました。番組は、2006年、米フロリダ州の沖合に沈められた1隻の退役した空母「オリスカニ」を軸に、アメリカの知られざる核戦略の実態と、日米両国の思惑に迫ったものです。（写真：爆破されるオリスカニ、WikipediaのHPより）

空母「オリスカニ」は、朝鮮戦争からベトナム戦争までの27年間、第7艦隊の主力空母として日本を拠点に活動していました。NHKが入手した米海軍の機密資料から、この空母が日本に核兵器を持ち込み、その後日本を拠点に朝鮮半島やソ連に向けて核攻撃態勢を整えようとしていたことを明らかにしました。当時、米ソの核開発競争が本格化する中、アメリカは日本をその“最前線の基地”として位置づけていたのです。それに対し日本は、非核3原則を掲げながら、アメリカに核持ち込みの有無を確かめることはありませんでした。

日本を核戦略の一部に取り込もうとするアメリカ。アメリカの巨大な核の傘に依存しようとする日本。両国の利害が一致し、より強固な同盟関係が築き上げられていったのです。

搭載していた「**特殊兵器**とは、**核兵器**のことだ」と明言する元米海軍中將、元乗組員は「核兵器を積んで、何度も日本の港に立ち寄った」と語り、「持ち込まさず、というのは有名無実、アメリカが『ない』』と言うから『ない』ことにしておこう」と言う元防衛事務次官。

1年をかけて集めた機密資料の数はおよそ300点、そして、関係者の証言は驚きです。

被爆国である日本は、衆議院において非核三原則を遵守する旨の決議がおこなわれています。

非核三原則は守られていると国民にウソを言い続けながら、国民を裏切っていた日本政府、さらに「持ち込まさず」を見直す動き、許せません。非核三原則、断固守りぬきましょう。